

授業概要

この講義では戦後日本の歴史を「経済」の側面から概観する。戦後復興と高度成長を中心テーマとし、具体的には、①アメリカ主導で遂行された戦後改革の過程と意義、②日本政府独自の経済復興政策（傾斜生産方式）、③高度成長の過程と要因（設備投資、技術導入・技術革新、政府の役割、所得増と大衆消費市場の成立、良質な労働力の確保、国際貿易）、④オイルショック、円高、貿易摩擦への日本の対応など、いくつかのサブテーマを通じて、戦後日本経済の復興・成長過程を解説する。

授業計画

| | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション（講義内容、講義方法、評価方法、参考文献など） |
| 第2回 | アメリカの対日占領管理方式の特徴 |
| 第3回 | 戦後経済改革① 農地改革 |
| 第4回 | 戦後経済改革② 労働改革 |
| 第5回 | 戦後経済改革③ 財閥解体 |
| 第6回 | 「傾斜生産方式」と戦後復興 |
| 第7回 | 財閥から企業集団へ |
| 第8回 | 中間テスト |
| 第9回 | 技術導入と技術革新 |
| 第10回 | 高度成長と設備投資 |
| 第11回 | 高度成長期の産業政策 |
| 第12回 | 所得増と大衆消費市場の成立 |
| 第13回 | オイルショックと高度成長の終焉 |
| 第14回 | バブルの発生と崩壊 |
| 第15回 | 日本経済のグローバル化 |
| 第16回 | 期末テスト |

到達目標

- 1、戦後改革の意義、影響を理解する。
- 2、日本の産業・企業が戦後混乱期から立ち直った歴史的経緯を理解する。
- 2、高度成長の背景・過程・意義を理解する。

履修上の注意

無断欠席、遅刻・早退、授業中の私語・スマホ操作は厳禁する。

予習復習

予習・復習は特に要求しないが、参考書は少なくとも一冊を通読することが望ましい。

評価方法

毎回授業後に提出するレポートと中間テスト、期末テストの成績を総合して評価する。

テキスト

テキストは特に使用しない。
講義中にプリントを配布し、講義内容に応じて参考書を適宜指示する。